

Y's Men's World



皆さんへ



国際会長 フィリップ・マタイ

前号では神から受ける恵みをより不運な友と分かち合う必要性を強調しました。他の人の前で吹聴するためでなく、理解してもらうためです。もし分かち合うことができたら、報いを受けるでしょう。

なにか皆さんが良いことをするとき、ただ自分への義務を感じるでしょう。今日私たちが持ち合わせているものはすべて神の御恵みであり、私たちはそれらの管理人なのです。所有者ではありません。だから私は皆さんに可能な限り良い行いをするよう求めます。それはほとんど記憶に残らないほどの優しさと愛の行動で、皆さんの子孫にも受け継がれるすばらしいものとなるでしょう。クラブから国際的なものまでのあらゆる職員たちがその目標を達成するのにたった1年しか持ち合わせていません。一瞬のうちに亡くしたものは永遠に失われるのです。だれも取り戻すことはできません。こぼれた牛乳にだれが嘆くでしょう。今年はもうあと少しとなりましたが、この限られた時間の中でできることをやりましょう。

私達の行動はすべて私達の活動にのっとっています。2020年までの目標は、100カ国で3,000のクラブ、50,000人ものメンバーを集めることです。今年の私達の地域会長は200もの新しいクラブ、3,000人もの人を受け入れました。その仲間たちの期待にぜひ応えましょう。

もう一つの重要な側面は国際プロジェクトへの貢献です。皆さんご存知の通り、2月は“Time Of Fast - Global Project”（国際断食プロジェクト）の月でした。皆さん自身の食事を断ち、基金へと寄付されたことでしょう。もしそうし損なつた方がいらっしゃれば、みなさんの区理事におっしゃり、このプロジェクトに力を貸してください。このもっとも博愛主義的なプロジェクトに参加をなさってください。また、その他の国際プロジェクトにもぜひ活動的に参加なさってください。

2013年の年央議会がハワイで2月の初週に行われ帰ったところです。次期地域会長の当選者たち、つまり執行委員でもある方々と国際執行役員の方々と共に議会ではディスカッションをもちました。すべての皆さんに感謝いたします。そしてクラブや今回お世話になったハワイのフィル・サマー氏にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

年央議会の前に、私は妻エリザベスとクラブのいくつかとアメリカ太平洋南西部をリアン・ポーターさんのご案内により、めまぐるしく訪問しました。その時お世話になった方々、温かくお迎えくださりありがとうございました。また、アリゾナのトゥクソンの初めてのユースクラブアリゾナ-サガロ Y ユースクラブの就任式も執り行いました。このクラブはアメリカで初めての試みとなるユースクラブということで、みなさんの動機の向上にもつながると信じております。

これまで皆さんは国際選挙の結果をお聞きになったことでしょう。

アイザック・パラシナル氏に心からの祝辞を述べたいと思います。神のご加護がありますように。

みなさん、彼の今後のご活躍を温かく祝福し、神を賛美しましょう。みなさんにも神のご加護がありますように。



編集者より

皆さんが今回の号を最後までご覧になったらもうお気づきでしょうが、12ページしかありません。なぜかと申し上げますと、ページを埋めるだけのお力をお借りできなかったからです。世界中のクラブでは毎年、何千ものイベントが行われています。それらは Y's Men's World にのっとっているものです。みなさんは何をされましたか。それらは他のクラブにもインスピレーションや新しいアイデアを与えるようなものでしたか。

アフリカ、アジア、韓国、ラテンアメリカからはお話を頂けませんでした。皆さん、どこにいらっしゃいますか。クラブで皆さんは地域社会にどのように貢献されていますか。国際事業主任からご投稿を頂きました。ISDPRの方々、ありがとうございます。ISD や地域サービス局長の方々には彼らの責任についてどのような考えをお聞かせくださるのでしょうか。

みなさん、この Y's Men's Club に投稿するのにシェイクスピアやトルストイになる必要はありません。私編集者の仕事は皆さんのご貢献に磨きをかけ、書面にすることです。英語でなくても構いません。皆さんがおっしゃりたいことをグーグルの翻訳機を使えば把握できますので、残りは私にお任せください。次号が私の担当では最後の号になります、どうか沢山のご投稿お待ちしております。

みなさんはこの Y's Men's Club 2010/2011 年の 11 月の 3 号にて私が 2012 年の 6 月をもってこの編集者を他の方に引き継ごうと考えていたのをご存じでしょう。しかしそうはいきませんでした。その 2012 年の 2 月までに 2 人の応募者がいらっしゃいましたが、2011/2012 年の三号ではより良い広告を掲載しようと決まっただけでした。合計 4 人の応募者がいらっしゃいましたが、まだ決まっていません。

2013 年 2 月に行われた年央議会では 2013 年の 1 月からジェームズ・オール氏が次の編集者になると発表されました。彼はジュネーブの本部で重役補佐としてとしてコミュニケーションやデータの管理を担っていました。彼もまた ISD ウェブマスターであ



ります。私が思うに彼は現代のコミュニケーション技術やデジタルコンテンツ、Facebook や Twitter といったソーシャルネットワークに長けており、会員の皆様により幅広く情報を共有することができると思っています。

10 年間私は編集者として素晴らしい経験をしてきました。そしてこれから変化が訪れます。ジェームズに私と同じような恵みがありますように。みなさん、写真や投稿で彼を助けてあげてください。

*Yours in Y'sdom
Wally*

クラブの設立

国際書記長 西村隆夫

皆さんに新しいクラブの設立の様子をご紹介したいと思います。クラブの設立には準備が必要です。新しいクラブはよく赤ん坊にたとえられ、赤ん坊を運んでくるといわれているコウノトリがスポンサーのクラブに新しいクラブの設立をもたらすようです。赤ん坊の誕生には十分なケアと準備が必要であり、新しいクラブの設立にも十分な準備が必要です。赤ん坊の両親は自分の子供がすくすくと育つのみをみて幸せを感じます。また、理事や部長、スポンサーのクラブもできたてのクラブが大きくなっていくのを見てそう思うでしょう。十分な準備や新メンバーへのオリエンテーションのないクラブの設立は少なくとも 2 年は続きますが、結果的にメンバーを失うか、短期間で途絶えてしまいます。

Y's Men の活動年は 7 月 1 日から 6 月 30 日で、リーダーたちはこの 12 か月の間事務所にいます。この期間に設立されたクラブは理事 (RD) とその年のリーダーたちに承認されるので、クラブにとって 2 月 1 日の報告書に名前を載せる必要はなく、承認を得ることができます。なのでメンバーシップ保全と拡大のため、リーダーや理事の皆さんは 2 月 1 日の報告書が提出された後もぜひご注目ください。

2 月 1 日の報告から 6 月 30 日まで 5 カ月もの期間があります。よって鍵はトロイカ理事 (広報理事、理事、次期区理事) としてどのように動くかです。6 月の終りまでに準備が終われば次期区理事が新設立を執り行うでしょうが、いつもは国際会長理事が行っています。そのご協力はみなさんに知ってもらわなければなりません。こうして 2 月 1 日の報告の前だけでなく、年間を通して新しいクラブは設立されます。設立おめでとう。

ロールバック・マラリアのためのハワイでのゴルフ

アメリカハワイ地域 ラス・リンチ

国際書記長のニシムラタカオ氏はゴルフがお好きですが最近プレイする機会がないとおっしゃっていました。ニシ氏はロールバック

世を照らす光となろう



ク・マラリアの成功についてお聞きし、カイムキ Y's Men's Club のロールバック・マラリア・ゴルフ大会と

2013 年 2 月に行われた国際議会の年次議会のものと日程を合わせるようセト・レイ氏に提案されました。

ゴルフハワイ地域大会はオアフ島のレイレワゴルフコースで行われ、ハワイ地域のメトロポリタンディストリクトにスポンサーになっていただきました。すべてのクラブがサンドウィッチを作るボランティアを提供してくださり、プレイに参加され、雑用仕事の大会といったものも開催されました。38 名のプレイヤーはそれぞれ 100USドルを参加費として支払いました。31 名の方がハンディをとり、その日 2 つの大会に出場することになりました。残りの 7 名のハンディ無しのプレイヤーは特別なスコアの数え方で参加しました。Y's Men's Internationalからは国際書記長のニシムラタカオ氏と奥様の久美子氏、国際会計のエリック・ブレアム氏、国際議員のオカノ・ヤズ氏が参加しました。

野外のスポーツで、とても楽しかったです。とても国際的でしたし、2,100USドルも Y's Men's International's からロールバック・マラリアに寄付することができました。主催者のセト・レイ氏はより多くの寄付がきて 3,000USドル、またそれ以上になることを信じています。

国際規約についての投票

イメージ対策本部 部長 フレッド・レオナルド

しばしば国際議会は国際規定の一部の変更について投票をします。それは条項と指針で成り立っています。指針は単純に議会の過半数の票をもって修正されます。しかし条項は議員だけで変更されることはできません。まず議会の 2/3 の承認を得た後、修正事項がクラブ、つまり最終決定権を持っている方たちに提案されます。投票に参加したクラブの 2/3 の方がさらに承認をした場合、修正が実行されます。



指針のエンブレムを見直す修正案は国際議会では満場一致で可決され、すぐに施行されました。新しいエンブレム

とロゴの多くのバージョンが国際書記局のホームページでダウンロードが可能で、お使いいただけます。

しかし近年の規定の条項修正の投票、私達の全体の名前を Y's Men's Club 国際協会から Y Club's 国際協会へと変更するかのものは 2/3 を超えることはなく、実現しませんでした。これはイメージ対策本部が違う視点を持って 7 月にマニラで開かれる国際議会で私達のイメージをよりよく紹介するため、取り組まねばなりません。

私達の活動は 40 年以上もの期間、協会に性別を問わずメンバーを受け入れてきました。誇らしいことにこれは他の多くの似たような協会とは違い、政府の強要なしに行ってきたことです。これが「正しいこと」だから行ってきました。私達の活動や惜しめない奉仕は女性メンバーやリーダーによる業績として称えられています。

40 年以上、私たちの協会は Y's Men とされてきました。この事実は世界中の多くの国で新たなメンバーを集め、私たちの協会の中での女性の役割の認識を助ける要素ではありませんでした。なぜなら中には性別の区別をしない言語もあるからです。今、新たなメッセージを伝える代替案を考えるべきです。ホームページやその他の要素を発展させ、この組織の男女平等性を反映させるべきです。皆さんの活躍の前に今までのイメージを現代化し、世界の自然や私たちの活動の幅広さをより広く伝えていくべきです。

特別な誕生日

カナダ・シドニー Y's Men's Club サンディー・レイノルド

毎年、私たちはクラブの設立を祝ってきました。9 年後にはトレド Y's Men's Club 及び Y'sdom は 100 周年を迎えます。シドニー Y's Men's Club はアメリカ国外で最初に設立されたクラブです。そして国際 Y'sdom を作り上げたクラブだと自負しております。1923 年の 1 月 10 日に設立され、2013 年の 1 月 10 日にはその事業の 90 周年を祝う祝典を行いました。



インド奉仕プロジェクトの例

インド編集アシスタント コーシー・マシュー

インド Y'dom は長く輝かしい伝統をもち地域に奉仕してきました。医療から個人の貧困まで幅広く取り組んでまいりました。そのような幅広い規模で奉仕をすることは容易ではありませんでした。以下にすこし例を挙げさせていただきたいと存じます。

腎看護は生活習慣病で肥満や糖尿病、高血圧などにつながる腎臓病の危険性を高める大きな課題となってきました。インド中西部や南インド地域ではこの問題に取り組むプロジェクトを立ち上げました。

ジェバダラ腎看護・透析プロジェクトはケララ州コーチで行われましたが、さらに州の 2 つの行政地域にも広がりました。現在までで 12 の病院で透析を必要とする 6,700 もの患者に奉仕してきました。地域では設備のない病院で 2 つの透析装置を導入しました。プロジェクトは Y'sdom 内部、外部の両方から多くのドナーを集めることに成功し、13,500,000 インドルピーもの金額を集め、使用してきました。地域理事のサジュ・チャッコ氏がこのプロジェクトの指揮をとり、この素晴らしい社会貢献を成功させてきました。



RENAL CARE COUNSELLING CENTRE & DIALYSIS PROJECT

Participating Chapters

- Y's Men's Club of Bangalore
- Y's Men's Club of Indira Nagar
- Y's Men's Club of Bourdillon
- Y's Men's Club of Peenya

Visit the Nephrology Unit on Second Floor for details
Counselling Centre Timings: 0900-1200 hrs (Mondays/Wednesdays/Fridays)

南インド地域での腎看護プロジェクトは 2 月に腎看護相談所の立ち上げをもって始動しました。カウンセラーが非常勤で勤務し、栄養士が病院内の腎臓専門医と協力し社会、感情、栄養、医療の面から患者を支援します。相談所は 4 つの主導のクラブによる毎月 20,000 インドルピー、(350 スイスフラン)の寄付で維持されています。透析の費用をすべて負担できない患者は毎回 500 インドルピーの割合で

Y's のメンバーより支援されます。始めの一か月で 10 人の患者が週 3 回の透析を必要とすると診断されました。1 年の時を経て少なくとも 500 人もの患者を支援することをプロジェクトの目標とします。南インド地域のゾーン 2、バンガロアでも 40 ものクラブがさらに支援に参加してくださるでしょう。

ガン看護はインド南西地域の主要な奉仕プロジェクトとしてその看護や治療の知識を広めるため労力を注ぎました。ケララ州最南部に位置する大都市トリバンドラムから北部のカサラゴ地区にある Y's Men's Club の活動拠点であるカンハンガへの

旅は550キロもの移動距離となりました。これは3日間にもわたり、州の大都市のほとんどを通過しました。道中、ガン予防研究のパンフレットやガン看護の冊子などが配布され、活動の促進を多くの方が目にしました。メンバー応募用紙もガン看護プロジェクトについてより知りたい方には配られ、登録をされました。少なく見積もってもこの旅では300,000人の方と出会うことができ、10,000冊もの多岐にわたる冊子が配られました。

インド西部地域においてドバイ Y's Men's Club によるホームレス支援の活動の一環として、クートゥプザの住人によって設立された独立機関、「愛の家」に食事場が提供されました。クートゥプザは小さな町でケララ州のカヌーの北部に位置しています。「愛の家」の皆さんは一日に500人ものホームレスたちに炊き出しをしています。これは今世紀初期に始まり、「良いソマリア人」たちの町を放浪している知的障害者たちの救助やりほりを目的としています。食事場は長期的な必要性を感じさせ、ドバイメトロの Y's Men から450,000インドルピー（7,700スイスフラン）がその建設に寄付されました。



“服を与える”というプロジェクトは南インド地域のバンガロア第二地区で行われています。このプロジェクトは男性用の服（シャツとズボンと1着ずつ）を5,000セット配布しました。これは大手の衣類製造会社ルイズフィリップによるものです。金額ベースでは約10,000,000インドルピー（170,000スイスフランにおよびます。）バンガロア北西部の Y's Men's Club は“空飛ぶ鳥ホーム”の高齢家庭や貧困家庭に80セットを配布しました。その後中央部の刑務所にて大々的な配布も行われました。インド刑務所省のご協力のおかげで Y's のメンバーたちはバンガロアの中央刑務所に出向き、受刑者たちに4,200ものセットを配りました。受刑者の方々は囚人服を着用しないため、この活動は歓迎されました。これで彼らも市民として服を着て町中にある法廷に立つことができます。写真をご覧ください。

献血もインドエリアの5つの地域でほとんど



のクラブが取り組んでいる活動です。最近の活動はバンガロアヒンダスタンユースの Y's Men's Club によって行われました。総じて192もの生徒が献血をし、ユースク



ラブのメンバーがボランティアとして一週間、生徒たちを献血に登録してもらうよう呼びかけながら取り組みました。バンガロア医療サービストラストが血液を回収しました。

Y's Menettes によって支援された子供たち

インド・バンガロアの Y's Men's Club
ティーナ・コーシー

バンガロアの Y's Menettes は2人の盲目の子供たちを支援しています。一人はケアのために施設に毎月の支援、もう一人には年間の学費を支援しています。

モニーシャは“Infant Jesus Children's Home”という孤児院に幼いころから住んでいます。彼女の親は両方ともHIVに感染しており、自分たちを養う術すらなく彼女は捨てられました。Y's Menettes は孤児院に1,500インドルピー（25スイスフラン）モニーシャの教育と福祉費用として納めています。

モニーシャにこの投稿において話を聞いてみましょう。

モニーシャ:私の名前はモニーシャです。2001年に誰かが赤ん坊の私をこの孤児院につれてきました。それ以来ここが私の家です。ウイリガードさんやシスターの皆さんが私のお母さんです。生きる上で何も足りないものを感じることはありません。全部私の愛する両親からもらっています。ここは私の大好きな家です。友達もいっぱいいます。神様や祈り、ウイリガードさんやシスターの皆さんのおかげで健康でいられます。この家に連れてこられたことに神に感謝しています。今私はクリスタル学校で学んでいます。世界中の病にかかっている人たちがウイリガードさんやシスターの皆さん、私たちの支援者の方のために祈っています。この



家ででの暮らしが大好きです。

シバーニは学生で三姉妹の末っ子です。彼女の両親には学費を払うことが困難でした。彼女の父は仕立て屋として、母は家政婦として働いています。クラブは2010年に名乗り出、彼女の学費を支援することになりました。今年、Y's Menettesは10,000インドルピー(170スイスフラン)を学費全額、教科書代、靴や制服を贈うのに彼女の通うSMK幼稚園と小学校に寄付しました。



Y's Menettesはこの二人の子供たちに少なくとも月に1回は会っています。この活動は二人が中学校を卒業するまでは続ける予定です。

Y's Men を旅して

ハワイ東カウアイ Y's Men's Club ベブ・オルセン

旅行の際は毎回訪れるエリアの Y's Men's Club に連絡を取るようになっています。最近訪れたスウェーデンでは、ベブ、フランク・オルセン二人がストックホルム、プロマ Y's Men's Club の“フィカ”に招かれました。フィカ、またはカフェクラッチというのはコーヒープレイクをとるという意味です。これはスウェーデンの伝統的習慣で、法律でも労働者たちに保障されています。スウェーデンの人々は1日に多くて4回もフィカをとり、スウェーデンをはじめとする北欧のコーヒープレイク消費量が世界一な理由がわかります。

バーティル・ヨハンソン氏が私たちに Y's Men の素晴らしいDVDスライドを見せてくださいました。プロマの Y's Men's Club は45人ほどの規模でストックホルムのYMCAであるオレブ・KFUMの活動をサポートしています。今回の旅でも Y's Man として素晴らしい出会いを経験しました。皆さんも試してはいかがでしょうか。

古代の宝石、よみがえる

スウェーデン・ストックホルム・プロマクラブ イングリッド・サンソン

スウェーデン、ストックホルム近くのソルナにあるコンフィデンス・シアターは特別な逸話を背景に変わった名前を持っています。少し前に Y's Men's Club が訪れた際、その逸話をお聞きました。美術所長のケルスティン・デラート氏がその逸話をお話くださり、私たちの訪問を特別な思い出にしてくださいました。

元々の建物は1671年に建設されました。アドルフ・フレデリック王の妃となった私たちの女王、ロヴィーサ女王のおかげで建物は1750年代初期に劇場へと建て替えられました。中にはいくつかの豪華な応接室もありました。中くらいに大きいのは王家のために予約

され、パフォーマンスを見ながら夕食をとられるとのことでした。テーブルはキッチンへと続いており、すべてを総じて“慢心なテーブル”と呼んでいるそうです。食事中は給仕がいなくてでくつろげます。劇場は“The Confidence(自信)”と名付けられました。劇場は女王のご子息、グスタフ3世王のもとで栄えましたが、彼が1792年に自身のオペラハウスで開いた仮面舞踏会で殺されて以降は衰退しました。劇場は他の目的に使われるようになりました。

クリスティーナ女王はこの劇場の近くに生まれ、その古い劇場に大変興味を持たれました。ある日女王はロイヤルオペラで歌うオペラ歌手、ケルスティン・デラート氏にお会いになり、広場を散歩され、彼女に眠っていた昔の宝石、コンフィデンスを見せられました。女王と彼女は二人で努力をすれば再建は望める、と決意されました。ケルスティン・デラート氏は何年も課題に取り組みました。友人や歌手仲間、俳優に広場にて無料でパフォーマンスをしてもらい、最後には劇場でももらいました。チケット代は劇場の再建に使われました。



発行を止める!

カナダ・カリビアン地域会長 テイン・ジェンキンス

クラブの活動を公に発信することは新しいメンバーを招き、地域の新聞に進行中のクラブプロジェクトの認知促進を頼む一つの効果的な方法だと思います。

それはシャーロットタウン Y's Men's Club がまさに毎年のパンケーキの日の準備をする上で朝食の調達を募る際に行ったことです。忙しいボランティアの方々が Y's Men's のロゴの入ったシャツとエプロンに身を包んでいる大きな写真、まさに記事上で印象強かったです。

地域社会に視覚的に存在を知らせるため、地域の新聞やテレビに活動の認知促進の協力を求めましょう。来るイベントの宣伝を、シャーロットタウンがしたようにしてみてください。もし代表者に伝えられないと言われた場合には自分のよく取れている写真と話を持ち込み、次回の発行に載せてもらえるようアピールしましょう。



Y's Men's Club, Smitty's team up again to serve fundraising pancake breakfast
Long-running event which supports more than 50 projects takes place Feb. 12

写真や話があなたが誰であるか、何をしているか、活動では何が得られるかをはっきりと説明しましょう。また、ロゴも写真のどこかに必ず載せましょう。より多くのメンバーと顧客を得るため、是非クラブの代表に情報を求め、問い合わせお待ちしております。

ロシアでのタイムオブファストプロジェクト

欧州タイムファストプロジェクト・国際プロジェクト基金
地域事業就任 ニコレイ・セロフ

毎年国際議会はタイムファストプロジェクト・国際プロジェクト基金の開催をあらゆる都市で認めています。2011年と2012年にはロシアから2つのプロジェクトが認められました。1つはマーマンスク地域のキロフスクにあるキロフスクユースセンターの支援によるものです。もう1つはヤロスラブルの近くのネクラソフスコエにある“Empowering Young People and Families for a Strong Future in Russia”の支援によるものです。

ユースセンターによるプロジェクトは3年の期間で実施される予定です。このプロジェクトの狙いはセンターの再始動でもあり、



可能な限り多くの子供たちやティーンエイジャー健康的な生活習慣やスポーツに参加させるためです。若者の自己鍛練性を高めチームで活躍し、リーダーにもなるようにするためです。8歳から13歳の子供たちの中には孤児や避難所からきた子供たち、恵まれない家庭から来た子供たちがいます。

ヤロスラブルではYMCAが若いリーダーの教育のため、キリスト教について、若者の社会での役割について教育をするため、多機能センターを建設する提案をしました。このセンターのインフラは快適な生活環境や年間800から1000もの活動の選択を提供することができます。

2月はこのプロジェクトの強化月間で、キリスト教徒にとってはレント(受難節)の期間です。基金に寄付をしましょう。私たちはこのプロジェクトがどのように地域社会に貢献できるかという経過を見てY's Menの皆様にも寄付を募りたいと思います。

2月はこのプロジェクトの強化月間で、キリスト教徒にとってはレント(受難節)の期間です。基金に寄付をしましょう。私たちはこのプロジェクトがどのように地域社会に貢献できるかという経過を見てY's Menの皆様にも寄付を募りたいと思います。

ゴールデンブック

トロント・ノースヨーク Y's Men's Club 国際事業主任
マーティン・ダンド

みなさん、エンダウメント・ファンド(寄付基金)についてお耳にしたことがあるでしょう。みなさんやみなさんのクラブが最低でも120アメリカドルは貢献してくださっている基金で、Y's Men'sの'Golden Deeds(輝かしい行動)'、Y's Menettes、ゴールデンブックにあるY'sdomの親せきや友人たちなど、後世のため記録をする機会をお持ちのことでしょう。

世を照らす光となろう

しかしみなさんはゴールデンブックを目にしたことがありますか。ジュネーブの国際本部にあり、来訪者にご覧になっていただけです。みなさんにはメインのページをお見せしたいと思います。このページのコピーは感謝の贈り物として受賞者や家族に額に入れて飾っていただくためにお渡しします。みなさんもこの方法でY'sdomのためにご労力くださった方に感謝を表してはいかがでしょうか。



喜びを与え、喜びを受ける

ラトビア・セシス Y's Women's Club デイス・シレ

数年にわたり、私たちは大家族の子供たちにクリスマスワークショップを行ってきました。今年のクリスマスは3人以上の子供をもつ10の大家族とともに過ごしました。共にジンジャーブレッドを焼き、デコレーションをしました。デクパーージュというひとつの表現法を教えました。それはあるものを模られた色紙を貼り、特別なペイント効果を使います。子供たちはガラスの皿をデコレーションしました。



美味しい昼食の後、すべての子供たち、ご両親、メンバーがゲームをして楽しみました。子供たちはサンタクロースからプレゼントをもらうために詩を暗唱しました。クラブの女性たちがプレゼントを自身で用意したのです。他の人に喜びを与えることで自身も素晴らしい気持ちになります。クラブのメンバーもこの日は子供たちや家族と共にとても楽しみました。

ワイズメンズワールド
2012/13年度 第3号

発行者:ワイズメンズクラブ国際協会
西日本区理事 成瀬 晃三(名古屋)
東日本区理事 駒田 勝彦(甲府21)
国際編集長 Allan Wallington
日本語翻訳・編集責任者 野村 秋博(名古屋東海)
日本版翻訳者 倉田 正昭(京都)、谷川 寛(大阪センテナル)、
谷本 秀康(東広島)、長尾ひろみ(宝塚)、青木 一芳(千葉)、後藤 邦夫
(東京まちだ)、中田 靖泰(札幌)、今城 高之(横浜つづぎ)、村野 繁(東京目黒)
印刷 株三浦印刷所

壊れない夢

南太平洋・地域会長 ジョン・ポンテフラクト

オーストラリアのブローケンヒル Y's Men's Club はまもなく大学生となる 2 人の卒業生に自分たちの夢が何か気付かせる機会を与えました。卒業生のエマ・シェファードとエマ・カミレリは教育奨学生を与えられ、5,000 オーストラリアドルもの支援を受けました。Y's Men's の古株メンバーや校長先生のロン・ファークラー氏はこの若い女生徒は家庭環境と収入によって選ばれたとおっしゃいました。「この支援が貪欲さではなく必要性を満たすことを望みます。」ファークラー氏はおっしゃいました。ブローケンヒル高校のエマ・カミレリは大学で健康科学を専攻します。18 歳の彼女が受ける 2 回目の奨学金です。昨年はブッシュ教会支援社会の四月奨学金をもって 9,000 オーストラリアドルの支援を受けました。カミレリさんは 12,600 オーストラリアドルを毎年住居に充てました。



シェファードさんも 18 歳で、南オーストラリア大学にて法学を学びます。彼女は奨学金をうけられて本当に驚いたといっています。しかし彼女はウィリアムズ高校での最終学年を精一杯学び遂げました。「とてもやる気に満ち溢れ、奨学金を受けるために勉強をたくさんしました。本当に奨学金を頂きたかったんです。」彼女は言っています。

Y's Men のメンバーはシルバーシティワーキングマンズクラブで金曜の夜行われたミーートラッフルの手伝いもしてくださいました。その利益は奨学金にも使われています。

国際議会選挙の結果

今年の国際選挙の投票用紙の締切りは 1 月 25 日でした。この日より後に票を投じたクラブは投票参加者とは認められますが、表は数えられません。1 月 30 日までに 946 のクラブが投票をされました。1,592 のクラブから集まった 2012 年 8 月でのメンバーシップに基づき、参加率は 59.4% でした。その投票の中から、18 票が遅く国際執行役員たちはあらゆる理由で 87 票を無効と

し、有効票は 841 でした。

インドのアイザック・バラシンカル氏が 2013/14 の国際理事に選出され、2013 年 7 月 1 日から勤務されます。

また、2013 年 7 月 1 日から勤務する国際議会のメンバーには欧州エリアにカール・ハーツゼンセン氏 (デンマーク)、同じく欧州エリアにカーステン・ムン氏 (デンマーク)、インドエリアにバロシル・ジョセ氏 (インド中西部)、同じくインドエリアにチャッコ・サジュ氏 (インド中西部) が選ばれました。

また、同じ時期から勤務する国際議会の代表と地域会長代表はアフリカエリアにクララ・イヘオマグ・アデトウイ氏 (アフリカ北西部)、ラテンアメリカエリアにはマルシア・カンポス・メンデス・ペレイラ氏 (ブラジル) となりました。

広報部の想い

広報国際事業主任 K・C サミュエル

Y's Men International の名を馳せることできるかは私たちが何をやるか、何を言うか、他の方々が我々について何を言うかにかかっています。この組織によって行われていることは見ているみなさんにあるイメージを与え、新しいプロジェクトについてメディアに取り上げてもらえるようにするためにも、広報を強化していきましょう。最後に、この素晴らしい刊行物は私たちのイメージを作る一つの道具です。その他としては、ブリーフィングやニュースの発表、インタビュー、記者会見や機関誌などがあります。

私たちの活動の 1 つの狙いはコミュニティーサービスにおいてクラブの参加を促すことです。コミュニティーサービスは Y's Men's International の主要部です。それぞれのクラブは国際的に地域社会へのプロジェクトを認識するべきです。それらは単発のものや一年にわたるもの、数年にわたるものもあります。地域社会のためのプロジェクトが目的となる受給者とその支援がいつ受給者に届くのかという持続性を考慮して選ばれます。

昔は Y's Men's Club は YMCA によって選ばれたプロジェクトを主に行ってきました。この活動が続き、私たちは現在しばしば地域社会と直接つながります。このようにしてコミュニティーサービスプログラムは共通の目的で広報プログラムと関わりあいます。私たちの活動が地域の多くの人に知られることができれば、それは地域に参加を促せます。

とても印象の強いプロジェクトというのは、決して金額の大きさやプロジェクトの規模では決まりません。その代わりに、地域の Y's Men's Club のどのメンバーのレベルで家族の仲間意識を楽しみ、分かち合うことができたかということで決まります。それはその地域に住んでいる方々のコミュニティーやプロジェクトが集まる、より大きな世界というコミュニティーでの関わり合いに就いてです。